

ふく でん じ つう げん あん
福田寺通玄庵

●所在地／上吾川 福田寺 ●所有者／福田寺

この庵は^{いんきよ}隠居した僧侶の離れとして建築された。平面的に 4.5 帖の大きさを基本に奥の間、仏間、表、茶の間と 4 室が母屋を構成し、附属する玄関、ダイドコを設けている。屋根は茅葺^{かやぶき}、寄棟造^{よせむねづくり}で、下屋は^{げや}棧瓦葺^{さんがわらぶき}と民家の形態である。

奥の間に設けられた^{つきしよいん}付書院は床や違い棚とは関連なく外部に面して出窓形式となっている。これは^{だしふづくえ}出文机（出文棚）とも呼ばれ、禅僧の書斎の一隅につくられ書見の場としての机であったものが後に文具などを装飾として飾るようになった。後の時代になって主室を飾るこれらの要素は、中世には別個に装飾と実用を兼ねていた。これらがしだいに主要な一室に集められて、今日みられる座敷飾りとなった。

建築された時期は^{ほうれき}宝暦年間（1751～1763）と伝えられている。

